

第6章 へき地・小規模学校教育

郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる児童生徒を育てる。

1 地域の特性や
少人数のよさを
生かした教育課
程を編成する。

- (1) 地域への愛着をもち、郷土を愛する心情が育つよう、自然・文化・伝統等、地域のよさに親しむことのできる多様な学習活動を指導計画に位置付ける。
- (2) 社会性やたくましさが育つよう、近隣の学校や環境の異なる学校との集合学習や交流学習を計画する。
- (3) 複式学級の特質を生かし、学年別の指導や同単元指導を適切に位置付け、2か年以上を見通した指導計画を作成する。

2 地域の特性や
少人数のよさを
生かし、個に応
じた指導の充実
に努める。

- (1) 児童生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう、自己選択や自己決定の場を多く設定し、教師の「待つ姿勢」を大切にしながら指導を行う。
- (2) 児童生徒同士が関わり合う機会を多くもつことができる環境を生かし、一人一人の感じ方や考え方を引き出す学習活動を設定して、互いのよい点や成長を認め合う人間関係を築き、自己有用感を高めるようにする。
- (3) 学習のねらいや一人一人の学習状況に応じて学習形態を工夫し、学年の枠を超えた活動、保護者や地域の人々の協力を得て行う活動等を効果的に展開する。
ア 合同学習や集合学習、交流学習を積極的に取り入れ、異学年や他校の児童生徒と関わる中で新たな見方や考え方を広げ、表現力を高めるようにする。
イ 複式学級においては、それぞれの学年のねらいを明確にし、直接指導と間接指導の組合せを工夫したり、共通の思考場面を適切に位置付けたりするなど、指導の過程を工夫する。

3 地域の特性や
一人一人のよさを
生かす評価を
工夫し、指導に
生かす。

- (1) 自他のよさや地域の特性に気付かせるとともに、指導上の課題等が把握できるよう、交流活動での自己評価や相互評価、地域の人々による評価を工夫する。
- (2) 活動の記録や学習カードを累積し、児童生徒が自らの取組を見直すことができるようにする。また、全教職員が学年の枠を超えて一人一人のよさや可能性を多面的に捉えるようにする。
- (3) 複式学級では、学年の組合せや児童生徒数の推移、指導の評価を踏まえて指導計画を見直す。同単元指導を行う場合は、学年別の評価規準に照らして学習状況の評価し、一人一人の指導に生かす。

少人数を生かす学習形態

合同学習

一つの学校で3学年以上(単式の学級では2学級以上)の児童生徒で学習集団を編成し、指導を行うこと。

集合学習

近隣の2校以上の児童生徒を一か所に集めて、各学校の教師の協力によって指導を行うこと。※

交流学習

学校規模や生活環境の異なる学校同士が姉妹校的な関係を結び、それぞれの学校独自では体験できない学習や生活を重視して指導を行うこと。※

※については、ICTの活用によって、オンラインで実施することも考えられる。

複式学級の指導の工夫

直接指導

児童生徒が教師と直接対面して学習を進めること。

間接指導

教師が一つの学年を直接指導している間に、他の学年の児童生徒が、個人又は集団で、その時のねらいに沿った学習を進めること。

【ガイド学習】

ガイド役の児童生徒が教師の指導の下、学習進行計画に沿ってリードしながら学習すること。

同単元指導

複式学級において、学年別の指導の問題点を補うために実践化されてきた指導法。

同じ学習時間に、同じ教科について、異なった学年の児童生徒が、同じ単元計画の下に学習を進めること。

1 複式学級における主な学習指導の類型

	長所	組合せ(例)	配慮事項
学年別指導	◇学年の発達の段階や学習内容の系統性を踏まえやすい。	第1学年 国語科 第2学年 図画工作科 第3学年 算数科「わり算や分数を考えよう」 第4学年 算数科「計算のやくそくを調べよう」	◇児童生徒の学習活動が途切れなないように学び方を育て、学習環境を整えておく。 ◇児童生徒が学びの手順や方法を理解できるようにしておく。
同単元指導	◇二つの学年に共通の学習場面ができ、複式学級に一体感が生まれやすい。	第3学年 理科「明かりをつけよう」 第4学年 理科「電気のはたらき」 第5学年 国語科「漢字の成り立ち」 第6学年 国語科「漢字の形と音・意味」	◇単元を組み合わせる場合は、指導の時期を合わせ、指導時数に幅をもたせるなど、年間指導計画を工夫する。
	◇二つの学年の協力的な学習の場を設定しやすい。 ◇より多くの人数で話し合いや体験的な学習ができる。	異程度 第5学年 体育科「マット運動 回転技」 第6学年 体育科「マット運動 倒立技」 同程度 第3・4学年 理科 A年度：「春の生き物(3年)」 B年度：「あたたかくなると(4年)」 一部同程度 外国語科 第5学年「Alphabet Time 2」↗「When is your birthday?(5年)」↘「Alphabet Time 3」 第6学年「(5年)」↘「Welcome to Japan.(6年)」↗「(5年)」	◇学年差による既習事項の習得状況の違いや発達の段階を踏まえ学習活動を展開する。 ◇各教科等の目標の達成に支障のないようにする。 ◇同程度と一部同程度で指導する際は両学年の内容を2学年間で学習する指導計画を工夫する。

2 展開事例 第3・4学年 算数科 学年別指導 異内容指導の例

1 単元名 3年「わり算や分数を考えよう」 2 全体計画(4時間) 第1次 大きい数のわり算(2時間) 第2次 分数とわり算(2時間) 3 本時の学習(2/4時) (1) 目標 2桁÷1桁の計算の仕方を既習の除法計算の仕方や数の構成を基に考え、説明することができる。	1 単元名 4年「計算のやくそくを調べよう」 2 全体計画(8時間) 第1次 計算の順序(4時間) 第2次 計算のきまりとくふう(4時間) 3 本時の学習(4/8時) (1) 目標 ドットの数の求め方を図や1つの式に表したり、式から考え方を読み取ったりすることができる。		
(2)展開	直接指導	間接指導	教師の動き(わり)
学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◆評価<方法>	指導形態 配時	指導上の留意点 ◆評価<方法>
1 本時の学習の流れを確認する。	・前時までの学習を振り返る。	2	・前時までの学習を振り返る。
2 学習課題を確認する。 ・式にすると69÷3かな。 ・60÷3はできるけど。 ・69を60と9に分ければいいかな。 2けた÷1けたの計算のし方を考えよう	・立式に必要な言葉を確認し、60が69に変わったという前時との違いを明確にする。	4 4	・児童が学習を進められるよう、活動の流れを提示する。
3 ガイド役の児童が中心となり、計算の仕方を考え、共有する。 ・色紙を使って、10のまとまりとばらに分けよう。 ・69を60と9に分けて計算しよう。 60÷3=20 9÷3=3 合わせて23	・ガイド役の児童が話し合いを進められるよう、進行表を準備する。 ・具体物を用いて考えられるよう、色紙を準備する。	4 4	・問題2を提示し、解決の見通しをもてるよう問題1との共通点や違いに着目するよう促す。
		12	ドットの数の求め方を工夫し、1つの式に表そう
	・間接指導を同時に行う。 ・学習状況を見取り、個に応じた支援をする。		
4 まとめをする。 ・位ごとに分けて計算すれば答えを求めることができる。	・互いの考えの共通点に着目できるよう、問いかける。	10 10	4 ガイド役の児童が中心となり、求め方を考え、共有する。 ・4のまとまりが4つと3のまとまりが3つできたよ。1つの式に表すと、4×4+3×3になるよ。 ・3のまとまりで考えると、3×8+1の式に表せるよ。
5 ガイド役の児童が中心となり、適用問題に取り組み、友達と説明し合う。 ・84÷4 ・46÷2	・児童が学習を進められるよう、活動の流れを提示する。 ◆思考・判断・表現 2桁÷1桁の計算の仕方を被除数の構成に着目して考え、図や式を用いて説明している。<ワークシート>	10 10	・友達で作った式は、どのように図に表せるか考えてみよう。
6 振り返りと次時の確認をする。 ・位ごとに分けて計算するところはかけ算と同じだったよ。 ・他の数でもできるか、やってみよう。		3	5 まとめをする。 ・計算の約束に注目すると、求め方を1つの式に表すことができる。
	・振り返りを共有し、次時への意欲付けを図る。		6 振り返りと次時の確認をする。 ・1つの式にすると考え方がすっきりと表せたよ。 ・1つの式からどのように考えたのかがよく分かったよ。

へき地・小規模学校教育